

……総合的学習の時間のヒントに

『福祉教育・ボランティア学習』

のてびき

～心のバリアフリーをめざして～



社会福祉法人町田市社会福祉協議会
町田ボランティアセンター

福祉体験学習を応援する 貸し出しグッズ

町田ボランティアセンターでは、福祉教育やさまざまな福祉体験学習のために、各種用具を揃えています。ご利用にあたっては、「福祉体験学習申込書」とともに、事前の予約が必要です。2ヶ月前までにお申し込みください。

貸し出しグッズ	使い方ほか	対象学年
車いす 25台	介助用のスタンダードなタイプです。	体の発達や体力の関係から、5年生以上がお勧めです。
アイマスク 50個	目とアイマスクの間にティッシュをはさんで使用します。	4年生以上。3年生までは、疑似体験よりも当事者の方のお話や交流が効果的です。
点字器 大60個 小50個	携帯用の簡易なタイプで、点筆とセットです。	おおよそ4年生以上で、ひとりに1セット使用
高齢者疑似体験 3セット	貸し出しのみとなります。	成人用のSサイズのため、5年生以上がお勧めです。

*点字を触読できる視覚障がいの方は、視覚障がい者全体の1割程度です。多くの方は音声などで情報を入手しています。

*点字体験には、点字用紙をご用意ください。日本点字図書館で入手できます。

http://yougu.nittento.or.jp/category110_95.html

*高齢者疑似体験セット以外は、グッズだけの貸し出しはしていません。

体験談・交流など

協力者	内容	備考
<ul style="list-style-type: none"> 車いすユーザー 視覚障がい者 聴覚障がい者 	自身の障がいのことや生活の中での工夫、ちょっと不便なこと、趣味などをお話します。	車いすユーザーの方をお呼びする時は、学校のバリアフリーについてご確認をお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者 	昔の生活の話や遊びなども教えてください。	地域の老人クラブなどの協力も得られそうです。



*福祉施設については、お近くの施設をご紹介します。
*その他、障がい理解教育については、下記の学校でも実施しています。直接、学校へお問い合わせください。

町田の丘学園：042-737-0570

このてびきに関するお問い合わせは・・・

社会福祉法人町田市社会福祉協議会 町田ボランティアセンター

TEL：042-725-4465 FAX：042-723-4281

<http://www.machida-shakyo.or.jp>

授業計画から実施まで

町田ボランティアセンターでは、福祉体験学習やボランティア学習についてのご相談を受け、授業のサポーターや活動先のご紹介などを行います。

*サポーターとは、子どもたちの豊かな心を育むため、同じ市民としてお互いに学び合いながら、ともに「福祉でまちづくり」に取り組む、福祉体験学習の支援者です。

【実施までの流れ】

準備

授業の企画

初めて福祉体験学習に取り組む、申し込みの時期など、気軽にご相談ください。

申し込み

福祉体験学習の申込み

実施予定日の2か月前までに「福祉体験学習申込書」*の提出をお願いします。

打ち合わせ

サポーター・活動先のご紹介

事前に、体験学習の内容や授業の進め方など、サポーターと具体的な打ち合わせをお願いします。現地での下見が必要な場合があります。

実施

福祉体験学習の実施

必要物品の準備、車いすなどの搬入・搬出については、学校でお願いします。

振り返り

実施報告書の提出

実施後、「福祉体験学習実施報告書」*の提出をお願いします。体験学習の感想文などは、サポーターや活動先の施設・団体等へ、ぜひお送りください。

*「福祉体験学習申込書」と「福祉体験学習実施報告書」はホームページからもダウンロードできます。<http://www.machida-shakyo.or.jp/volunteer/v-shien.htm>

体験学習のいろいろ



車いす体験

二人一組で校内の昇降口やスロープを使ったり、体育館の場合はいろいろな障害物をセッティングして行います。周囲の環境によっては校外に出ることもあります。

バリアフリーチェックやマップ作りは、楽しみながら街の新しい発見ができる機会となるでしょう。

アイマスク体験

二人一組で、一人がアイマスクをしてもう一人がガイドヘルプの体験をします。交代して両方を体験し、見えない世界を体感することで自分にできることはなにかを考えるきっかけとなります。

主に校内で実施します。

点字体験

一人にひとつ点字器を用意します。点字用紙を使用し、実際に自分の名前や学校の名前を打ってみます。関連して、身の回りにあるユニバーサルデザインを探すことにより、障がいがある方だけでなく、誰にとっても便利な製品や環境について知ることができます。

手話体験

耳のきこえに障がいがある方のコミュニケーションの手段のひとつです。手話表現の体験もしながら、きこえに障がいがある方の暮らしや街の中の不便などを知ることによって、きこえに障がいがある方への理解の手助けとなります。

高齢者疑似体験

サポーターや重りをからだに身につけ、高齢者のからだの不自由さを体感することにより、高齢者への理解を深めるきっかけとなります。

体験の後、高齢者への見方や暮らしやすさの工夫など、考える時間を設けることで、さらに理解が深まるでしょう。

その他にも障がいがある方の体験談、ボランティア学習、国際交流や環境保護の活動紹介などもあります。

